

子供に
ツケを
まわさない!

「自治体財政研究会」 in 静岡のご案内

●とき／2008年1月31日(木) ●ところ／静岡市産学交流センター7階 大会議室



- ▶日 時／2008年1月31日(木) 17:20～20:50
- ▶会 場／静岡市産学交流センター7階 大会議室
- ▶対 象／主に地方自治体議員と首長、その候補者、自治体財政に関心のある方、公認会計士、税理士、公務員など
- ▶定 員／80名程度 (先着順で締切らせていただきます)
- ▶参加費／5,000円
(希望者は有料で仕出し弁当をご用意しますので、事前にお申し込みください)

主 催



pen the taxpayer's eye

公 会 計 研 究 所

CUC 千葉商科大学
Chiba University of Commerce

会計専門職大学院
会計ファイナンス研究科

事 務 局

JTR

日本税制改革協議会

東京都港区赤坂1-3-15-7F
T E L / 03-5545-7280
F A X / 03-5545-0931
E - m a i l / info@jtr.gr.jp

夕張ショックが醒めやらない今、全国の地方自治体にとって財政再建が、最大かつ最優先の政治課題です。しかし多くの自治体は、体力以上の負債を抱え、安易な借金や増税に頼った「子供にツケをまわす」財政運営をしています。

現在、全国98%の自治体が導入している「総務省方式」や、「東京都庁方式」の公会計は、自治体の財政実態を伝えるものではありません。そのため有権者（納税者）は勿論、議員や執行部でさえも「現状把握は困難」という恐ろしい状態が続いています。棚卸し（現状把握）がなければ、改善の方策は見えてきません。方策を決めることなく、右往左往している。それが今の地方自治体の姿です。

借金に苦しみながらも抜けだす方策を持ち得ない地方自治体にとって、「公会計研究所方式」の公会計が、最も有効なツールとなります。

福岡県福岡町（現・福津市）は全国で唯一、中学生でも理解できる「公会計研究所」の公会計方式を導入しています。1999年度の町民一人当たり約52,000円の赤字を、6年後の2005年には約64,000円の黒字へと転換しています。

今回、地方自治体の財政再建に真剣に取り組もうとしている、地方自治体議員や首長その候補者、自治体財政に関心のある方、公認会計士、税理士、公務員などを対象に「まずは棚卸し（現状把握）からはじめよう!」「子どもにツケをまわさない!」を合い言葉とし、公会計の基礎や理論などを学ぶ「地方自治体財政問題研究会」を公会計研究所と千葉商科大学 会計専門職大学院 会計ファイナンス研究科の共催により開催致します。

一緒に財政再建の糸口を見い出しましょう!

「自治体財政研究会」in 静岡

スケジュール

1月31日(木)

17:20～	千葉商科大学の紹介とオリエンテーリング
17:30	
17:30～	講演・第1部
19:00	子供にツケをまわさない! ～この人でいいのか?～
19:00～	食事休憩
19:30	(希望者は有料で仕出し弁当をご用意しますので、事前にお申し込みください)
19:30～	講演・第2部
20:50	子供にツケをまわさない! ～市場対政府～

講師の紹介



吉田 寛 Yoshida Hiroshi

公会計研究所 代表
自由経済研究所 代表
博士(政策研究)・公認会計士
千葉商科大学大学院教授

『住民のための自治体バランスシート(学陽書房)』

『公会計の理論(東洋経済新社)』※第32回公認会計士協会学術賞受賞

他、他著書多数

福岡県福津市(旧福岡町)において『町民の賃借対照表』『町長の賃借対照表』『成果報告書』を作成

